

# 第3回「持続可能な地域のあり方懇話会」

## 議事要旨

日 時 令和7年12月23日（火） 18:00～19:30

場 所 グリーンパレス 2階 千歳・芙蓉

### 出席者 【専門委員】

白木 三秀 （早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授）  
澤岡 詩野 （東海大学健康学部健康マネジメント学科准教授）

### 【委員】

関口 孟利 （松江地区連合町会会長）  
中村 徹 （小松川平井地区連合町会会長）  
田澤 茂 （一之江地区町会連合会会長）  
千倉 嘉一 （葛西地区自治会連合会会長）  
森田 省吾 （小岩自治会連合会会計）  
伊藤 彰彦 （瑞江地区連合町会会長）  
松下 幸博 （篠崎地区連合町会会長）  
実川 享 （鹿骨地区自治会連合会会長）  
高山 稔 （くすのきクラブ連合会副会長）  
戸倉 振一 （江戸川区障害者団体連絡会江戸川区腎友さつき会会長）  
村山 寿太郎 （一般社団法人江戸川区スポーツ協会常任理事）  
河藤 小百合 （公益財団法人えどがわボランティアセンター監事）  
守島 亜季 （一般社団法人江戸川区医師会副会長）  
菅原 豊 （環境をよくする葛西地区協議会会長）  
中里 国利 （江戸川消防団副団長）  
彦田 好之 （葛西消防団副団長）  
小泉 和久 （小岩消防団副団長）  
池田 進 （認定NPO法人えどがわエコセンター理事）  
小野塚 良朋 （江戸川区立小学校長会）  
中嶋 浩詞 （江戸川区立中学校PTA連合協議会ブロック長）  
林 伸子 （青少年育成地区委員会小岩中部地区委員会委員長）  
窪田 龍一 （江戸川区議会議員生活振興環境委員会委員長）  
小林 智夫 （江戸川区議会議員生活振興環境委員会副委員長）  
グリズデイル バリージョシュア  
（公募区民）  
原田 まなつ （公募区民）  
磯崎 愛 （公募区民）

## 議事要旨

### 1 開会

(斉藤区長より開会のあいさつ)

- 本懇話会では、今年8月より2回にわたり、将来に向けて持続可能な地域のあり方について、さまざまな視点からご意見をいただいた
- 過去を振り返ると、今年はちょうど昭和100年の年にあたるが、さらに江戸時代まで遡ると、コミュニティの基本は「藩」であった
- 当時、人々の移動は藩の範囲内が基本であり、その移動手段も基本的に徒歩であった
- 今回の素案は、「徒歩10分圏内」というところに着目し、歩いて行ける範囲で「人と人とのつながり」を育んでいくことができるようにしたいという思いをまとめたものである
- AIを含む先端技術を駆使したまちづくりも進めつつ、江戸時代の藩のようなつながりも大事にした地域が、持続可能な地域のあり方のひとつの考え方なのではないかと考えている
- 本日説明させていただく構想はあくまで素案のため、ぜひ皆様から忌憚のないご意見をいただきたい

### 2 事務局説明

(持続可能な地域のあり方基本構想(素案)について)

- 本懇話会でいただいた意見、及び、将来地域の担い手となる若い世代の意見を取りまとめて、本素案を作成した
- 若い世代からの主な意見を紹介すると、「これまで参加したことがある地域活動」として多く挙げたのは、おまつりなどのイベント、防災訓練、清掃活動、ラジオ体操、学校を通じた地域活動などであった
- また、「担い手の確保策」や「つながりの希薄化の解消策」としては、「地域活動に参加したら何かをもらえる」、「有名人やインフルエンサーを呼ぶ」など、自由な発想でさまざまなご意見をいただいた
- これらの意見も踏まえ、目指す地域の姿を実現するための方向性を素案としてまとめた
- なお、この素案にまとめた内容は、あくまで持続可能な地域に向けた取り組みの方向性であり、現状の課題を解決していくためには、今後さらに詳細な検討が必要であると考えている  
(以下、素案の概要版にそって内容を説明)

### 3 意見交換

説明した「持続可能な地域のあり方基本構想(素案)について、グループ内で意見交換を行った(主な意見の内容【順不同】)

- ・小中学生が実際に「(仮称)ミニ区役所」に行く機会や、学校でコーディネーターの方からの説明を受ける機会があれば、より「(仮称)ミニ区役所」を身近に感じることができるのではないかと
- ・例えば表彰など、物理的なものではないものが必要ではないかと
- ・区に住んで誇りが持てる機会や歴史や伝統を大切にすることが必要
- ・PTAや消防団などとの連携も必要ではないかと
- ・ミニ区役所について広く知らせることができればいい
- ・外国人にも参加してもらえるよう「やさしい日本語」などを使うことが必要
- ・地域の中心となる場、人が集まれる場は大事なこと

- ・町会などでは、楽しんでやっていくことが重要である
- ・実際運営していくにあたっては、資金面が問題になるのでは
- ・インセンティブを支払うこと、やりたいと思えるような動機作りが大切である
- ・運営していく主体がどうなっていくのか、町会との連携はどうしていくのか検討が必要
- ・「人と人とが関わる必要性」を整理し、今後学校などで若い世代と培っていかなければならない
- ・将来の話も重要だが、現状の個別課題を解決していくことも大事である
- ・中長期、短期について期限を明確に記載してほしい
- ・現在の町会・自治会との関連性を明らかにできるとよい
- ・既存のなごみの家はどうなっていくのか
- ・「出迎えてくれる役所」は非常にありがたい
- ・試験的に3か所か5か所程度で実施してみるとよいのではないか
- ・オンラインで本庁とつながるのであれば、(仮称)ミニ区役所に専門職員を配置しなくてもよいのではないか
- ・誰もが利用しやすい施設にするために、さまざまなニーズを持つ人たちの意見を反映してほしい
- ・開館時間の工夫も必要である
- ・町会・自治会を中心に考えるべき。大勢の人の参加が重要である
- ・担い手不足、つながりの希薄化はいつの時代にもある課題である
- ・おまつり等は地域を盛り上げる最高の仕掛けである。仕掛けをいろいろ作るべきである

#### <講評>

(澤岡副会長)

- 今回の基本構想は理念的な内容で具体的な記載はあまりないが、それはつまり、この素案に描かれている「地域連携の場」や「(仮称)ミニ区役所」の仕組みを使って、住民の皆さんが、それぞれの地域が抱える課題、人やニーズを話し合いながら具体的に作っていくということではないか
- 徒歩圏内という少し小さな地域単位の中で、多様な人が少しの力を出し合うことで、新しい力になるかもしれない。地域の外からもいろんな人が巻き込めるかもしれない
- 今回のミニ区役所が上手くいけば、小さな単位の中で多様な人たちが繋がれるプラットフォームになると思う
- 「これからみんなで新しい形を、それぞれの地域に合った形で作っていこう」というメッセージをこの素案から感じた

## 4 閉会

(白木会長より閉会のあいさつ)

- 目指すべき地域の姿とは何かというのがポイントだと思う
- この素案では「ともに生きるまち」が目指すべき地域の姿であるが、区民のウェルビーイング、つまりよりよく生きるためにどうするかという視点も重要である
- そうすることで、課題やより具体的な施策も検討していくことができると思う
- 今後も皆さんの意見を聴きながら進めてほしい